

北里大学に対する大学評価（認証評価）結果

I 評価結果

評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。

認定の期間は2017（平成29）年3月31日までとする。

II 総評

一 理念・目的の達成への全学的な姿勢

貴大学は、1914（大正3）年に設立された「私立北里研究所」を母体とし、1962（昭和37）年に、社団法人北里研究所の創立50周年記念事業の1つとして、東京都港区白金の地に設立された。学祖が生涯をとおして顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」のいわゆる「北里精神」を建学の精神とし、「基礎医学・化学領域の研究者・医療技術者の養成」を目的として衛生学部（化学科・衛生技術学科）1学部から出発し、現在は白金キャンパス（東京都港区）に薬学部、薬学研究科、感染制御科学府を、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）に医学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、医療系研究科、看護学研究科、理学研究科を、十和田キャンパス（青森県十和田市）に獣医学部、獣医畜産学研究科を、三陸キャンパス（岩手県大船渡市）に海洋生命科学部、水産学研究科を擁する生命科学系総合大学として発展を続けている。また、2008（平成20）年には、社団法人北里研究所と学校法人北里学園が統合し、学校法人北里研究所として新たな歩みを刻み始めている。

貴大学は、2008（平成20）年の統合の際に、「健康・環境・食の連携により、生命科学と医療科学を学ぶ総合大学を目指す」と将来像を掲げ、①生命現象の科学的解明とその活用、②医療・保健・福祉の向上、③資源生物の機能解明とその生産・利用、④環境の保全と創造の4つの教育研究目標をたてている。

このような大学の理念・目的・教育目標等は、教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して公的な刊行物やホームページ等によって公表されている。しかし、大学全体の教育目的は学則に定められているものの、学部・研究科ごとの人材養成に関する目的その他の教育・目的については、ホームページに掲載されているのみで学則等に記されていないので、学則および大学院学則等に定め公表することが望まれる。

貴大学は、2012（平成24）年に創立50周年の節目を迎えるにあたり、「将来構想検討委員会」を設置し、これまでの歩みの検証と将来のさらなる発展に向けて検討を始

北里大学

めたところである。こうした積極的な取り組みにより、貴大学が推進する全学横断型の教育・研究活動が新たに発展することを期待したい。

二 自己点検・評価の体制

貴大学では、1992（平成4）年に「全学自己点検・評価委員会」および「学部自己点検・評価委員会」を設置し、大学・学部・研究科における教育・研究水準を維持・向上させるために、組織・活動についての点検・評価を不断に行っている。大学全体の教育・研究・診療・管理運営に関しては、毎年、自己点検・評価を行っており、随時結果を学内外に公表している。第三者評価についても、積極的に対応がなされ、2000（平成12）年に本協会の相互評価を受けているほか、英国全国医学評議会、全国獣医学関係大学代表者協議会、日本技術者教育認定機構（J A B E E）による評価を受けて改善に生かしている。

2007（平成19）年には点検・評価室を設置して自己点検・評価の体制を強化している。今後は、点検・評価の結果、導き出された改善・改革の方策などを、着実に実行・検証していくことが望まれる。

三 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

1 教育研究組織

「北里精神」のもと、「実学教育の実践」と「サイエンスの追求」をモットーとして、広く生命科学分野の教育、研究、診療、社会連携を進めていくため、7学部、大学院6研究科・1学府、一般教育部を設置している。また、北里生命科学研究所、東洋医学総合研究所、臨床薬理研究所の3附置研究所（基礎研究所は2009（平成21）年4月に北里生命科学研究所へ統合）や附属センターなどの教育・研究上の組織を備え、さらに、4附属病院の附属施設を併設しており、適切な教育研究組織が整備されているといえる。

こうした組織構成のもと、学問領域に沿った各学部・研究科の教育・研究の深化と全学横断型の教育・研究を推進し、さらに各学部・研究科独自の重点項目を定め、大学の理念である「生命科学のフロンティア」を目指している。

2 教育内容・方法

（1）教育課程等

全学部

4つの「群」に分けた科目群からなるカリキュラムが特徴であり、教養教育、外国語教育、情報教育、専門教育に関わる授業科目等がバランスよく配置されている。教養教育が、全学部1年次生を対象として相模原キャンパスで行われているのは、教養

北里大学

教育専用のキャンパスを持つ強みである。しかし、教養教育科目を未修得のまま進級し、別キャンパスで学ぶ学生については、当該科目のみを相模原キャンパスで履修しなければならない、こうした学生への配慮も、大学として求められる。学士課程教育への円滑な移行に必要な導入教育については、大学として高校の数学・理科の未修者や未習熟者への対応として、高大接続科目を開講するなど、大学入学時における基礎学力の充実が図られている。

また、学祖の考え、業績をとおして大学の理念を学ぶ「北里の世界」という授業も選択科目で設けられている。

薬学部

貴学部独自の取り組みとして、数学と物理の能力別クラス編成がなされている。2年次生には専門基礎教育が用意され、3年次生からの専門教育につなげる工夫がある。5・6年次の実習を主体とした教育においても、「病院実習」を附属病院で行うなど、総合医療系大学の強みが見られる。国家試験科目に対応するカリキュラムにも注意が払われている。

教育内容はモデル・コアカリキュラムの内容をカバーし、全体に教育課程はバランスよく編成されている。医学部、看護学部、医療衛生学部などの学生との少人数討議（SGD）やチーム医療を学べる科目があることは適切である。その一方で、1～3年次における6年制と4年制の薬学科間での教育内容に大きな違いが無いことは今後の改善課題である。

獣医学部

人と動物の共存を地球規模で考えることをとおし、現代社会の諸問題を解決できる人材を育成するという学部の教育目標のもとに、「人間形成の基礎科目」と「基礎教育科目」からなる1群科目、専門関連科目としての2群科目、専門教育科目としての3群科目の構成でカリキュラムが編成されており、専門性を育成する内容である。

貴学部は改組学年進行中であるが、特に獣医学科、動物資源科学科および生物環境科学科の具体的な連携推進や、生物環境科学科の環境修復コースが認定を受けたJABEEプログラムについては、今後の動向に注目したい。また、教育・研究の国際的水準化、「農医連携構想」の推進、獣医師活動分野の偏在解消が教育課程で掲げられており、より具体的な取り組みに期待したい。

医学部

6年一貫教育をかかげ、適切な教育課程が配置されている。特に、単なる座学だけでなく、体験型実習やグループ学習を積極的に取り入れ、一方で、OSCE（客観的

北里大学

臨床能力試験)やクリニカルクラークシップを導入し、多角的な教育に配慮している。専門教育は独自の「器官系別総合教育」により実施されており、それぞれ「系議長」を責任者として、基礎医学系と臨床医学系の教員が総合的・有機的に教授する方式となっている。一方、全国の医学部で広く取り入れられている医学教育コアカリキュラムへの対応が必ずしも進んでおらず、4年次での学習負担の増大や臨床医学講義における重複なども今後の課題である。

海洋生命科学部

貴学部の理念・目的・教育目標を実現するため、教養教育、外国語、情報教育および専門教育が整備され、日本技術者教育認定制度に対応したJ A B E Eプログラムを実施している。専門的授業科目への円滑な移行に必要な導入教育として、「海洋生命科学概論」(2009(平成 21)年度「水産生物科学概論」より名称変更)が1年次に実施されている。全体として、教養教育から専門教育までの授業科目などのカリキュラムがバランスよく配置されている。さらに、1年次の教養教育に加えて、2、3年次開講の専門教育科目や卒業論文を通じた科学者倫理、生命倫理、環境倫理、技術者倫理の教育が行われている点に特色がある。

看護学部

倫理教育は「倫理学A・B」「看護倫理」および各看護実習科目のなかで十分に配置されている。また、チーム医療論、米国の協定校であるU C L A看護学部において、「国際看護論」という英語による実践的な看護学演習を行っていることも特色である。選択単位の履修モデルを提示し文化・健康・社会の領域を幅広く学修させている。教育課程は、教育目標と資格取得との関係からバランスよく整備されており、適切である。臨地実習に関しては、履修基準を設けて学修の順次性を考慮しているほか、附属病院との協働体制が確立されており、実習教育の質を確保する努力が認められる。

理学部

生命科学の修得をめざして、物理学・化学・生物科学それぞれの分野の基礎のみならず他学科の専門分野についても正しく理解ができるようなカリキュラム構成である。カリキュラムの特色としては、国際化への対応として、教養教育から専門課程にいたるまで英語教育にも重点がおかれている点や、群構成のカリキュラムがバランスのとれた編成になっており、講義で得た知識が自主的かつ体験的に学習できるように実験科目や演習科目が必須科目として約45%を占めている点などがある。

北里大学

医療衛生学部

国家資格の取得だけでなく、高度な知識・技術を有する医療従事者、それぞれの分野でリーダーとして活躍する医療人、学際的なスペシャリストを育成し、問題解決能力・職務上の責任自覚などの修得を目指す教育を実施している。

また、「チーム医療教育プログラム」や「農医連携」など、健康関連の他学部との学部横断プログラムも開講されており、学生段階から他分野の学生とのチーム医療を学ぶことができる体制が整っている点は評価できる。

全研究科および学府

社会人受け入れに対応するための特別な配慮として、長期履修制度が設けられている。また、一部の研究科では、遠隔授業やe-Learningを活用して授業を進めているほか、週末を利用した研究指導が行われている。昼夜開講制や土日開講制などの実施については、一部の研究科に限られているので、今後の検討が望まれる。

薬学研究科

薬学、臨床薬学、臨床統計学、医薬開発学、さらには「がんプロフェッショナル養成プラン」に対応する医療薬学、の計5履修コースから構成されている。講義科目としての特論、演習および実験を主体とする実習科目が配当されており、おおむね適切である。

獣医畜産学研究科

修士課程においては基本的研究技法と高度の専門性を、博士課程では自立した研究者として活動できる研究能力を育成することを目指して、講義、実験および演習の各科目が適切に配置されている。

獣医学部の改組により、学年進行で貴研究科の改組計画が想定されるが、さらなる発展に向けた検討・実施が望まれる。

水産学研究科

水産学の広範な研究領域のなかから教育・研究の対象を、水圏生物の生産に関わる「水産増殖学専門分野」、水圏生物の生態と環境に関する「環境生物学専門分野」、水圏生物の高度利用を目指す「応用生物化学専門分野」に整理分類し、学部の海洋生命科学科との連携を図っている。さらに連携大学院方式の採用により、株式会社海洋バイオテクノロジー研究所と協力して、環境生物学専門分野に「海洋環境微生物学講座」を加え、教育・研究対象の幅を広げてきたことは評価できる。また、在職のまま博士後期課程へ受け入れる社会人大学院制度を有する。

北里大学

看護学研究科

看護生涯教育のモデル化という理念のもと、博士前期（修士）課程と博士後期課程が設置されている。博士前期（修士）課程には、研究・教育のリーダーおよび実践のスペシャリスト養成を目的とする専門分野と関連分野が配備されている。博士後期課程には高度な研究能力と豊かな学識を養う実践看護学と機能看護学の2領域からなる7分野がある。また、大学院学生のほぼ全員が社会人あるいは社会人経験を有している。

理学研究科

分子科学専攻と生物科学専攻の2専攻で構成されている。分子科学専攻では物理学、化学に立脚し分子および分子集合体の構造や動的特性に関する教育・研究を、生物科学専攻では生物科学の深い知識をもち生物学、基礎医学での最先端の研究を担える人材育成を目的としている。ほとんどの教員が学部教育と大学院教育とを兼務するため、指導内容と履修内容の継続性が確保できるうえに、修士課程から博士課程へと研究の深化が可能であることが、教育・研究形態として評価できる。研究科の教育内容と学位授与プロセスも適切である。

医療系研究科

理念として、「医学医療の総合的発展」「基礎研究と臨床研究の調和的発展」「研究者・教育者の育成」および「専門技術者の育成」をあげている。プロジェクト研究を講座単位ではなく、講座・学群を超えて実施しているのは、基礎研究と臨床研究の調和的発展の目的に合致している。教育課程における科目の配置、科目数などはおおむね適切といえる。修士課程、博士課程の共通教育科目として医療人間科学分野を置き、人間性に対する洞察力と医学医療を取り巻く環境変化に対応できる人材を養成する配慮が特色である。また、県内他大学や学内他研究科の学生を積極的に受け入れ、単位を認定している。

感染制御科学府

設立理念・目的として「疾患の予防と治療法に焦点をあてた『感染制御・免疫学履修コース』と、新薬の創製に資する技術者や研究者を育成することに焦点をあてた『創薬科学履修コース』の2コースを置き、基礎および基盤技術の理論と技法を教授すること」を教育目標としており、設立時より一貫する特徴として内外に対して強くアピールする性格のものである。カリキュラム上でも分子ウイルス学、分子細菌学、病原細菌学、微生物創薬学、ワクチン学、ウイルス腫瘍学など、他大学には類をみない特色あるカリキュラムが見受けられる。また、北里生命科学研究所の「感染制御と創薬」

にかかわるプロジェクトに参加できることは最前線の研究を経験するという観点から、学生にとって魅力的である。

(2) 教育方法等

全学部

1年次生に対して、高校の学習内容が復習・再学習できる「一般教育部学習支援室」が設置され、教育支援体制ができています。ファカルティ・ディベロップメント（FD）推進のために大学附属施設として「北里大学高等教育開発センター」が設置され、教員の教育力向上、教育プログラムと教材の開発、教育組織の改善など学士課程教育の充実が図られている。

シラバスについては、統一した形式で作成されているものの獣医学部、医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部においては、科目による記述内容に精粗が見られ、必ずしも十分に整備されているとは言えないので、改善が望まれる。また、授業評価は、おおむね実施されているものの、獣医学部、医学部、理学部においては、アンケート結果が学生に公表されていない。医学部においては2006（平成18）年度以降は5年次の授業評価のみを実施し、他の学生による授業評価は中断しており、再開が待たれる。海洋生命科学部においては、学生が就職した企業や卒業生にも定期的にアンケート調査がなされ、学部教育が効果的であったか否かを検討している。さらに、アンケート結果を基にした優秀教育賞の選出・公表が全教員の刺激になるなど、結果を授業改善に生かす工夫が行われている。

1年間の履修登録単位数の上限については、海洋生命科学部では定められていないので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。なお、入学時や進級時の履修指導は、各学部とも組織的に行われている。また、獣医学部生物環境科学科では、不合格科目について、再履修を認めず、再試験だけで対応しているので、改善・検討が望まれる。

全研究科

論文の作成にあたり、複数の教員から指導を受けるなど、研究指導体制は整っている。しかし、シラバスは薬学研究科、獣医畜産学研究科、医療系研究科において記述があいまいで精粗が見られるので、改善が望まれる。また、獣医畜産学研究科や水産学研究科では研究科独自のFD活動が行われておらず、看護学研究科においても論文指導プロセスでの意見交換会やカリキュラム検討会に限られ、教育・研究指導方法を改善する組織的な取り組みに至っていないので、活発な活動が求められる。

(3) 教育研究交流

全学部

国外 16 大学との間に学術国際交流協定を締結し、学部単位での取り組みも一部に見られるが、学生の派遣・受け入れは少なく、全体として交流は活発に行われているとは言いがたい。国際化を推進する大学であるが、大学として国際交流に関わる専門組織を持たず、概して受け入れシステムの整備も不十分である。ただし、医学部においては「グローバルな視点を持った医師を養成する」ことを目標に掲げており、海外施設において臨床実習を実施し、毎年 6 名前後の学生を海外に派遣している。また、看護学部においても、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の看護学部との国際交流協定を締結し、教員・大学院学生の招聘や国際看護論演習での学部学生の交流が行われていること、発展途上国への教育支援を促進することなどを含めて国際交流担当教員を配置して、組織的な交流が行えるシステムを整備している。

全研究科および学府

一部の研究科では海外への学生の派遣や研究者の受け入れが行われているものの、学部と同様、教育研究交流は活発ではなく、留学生も少ない。特に、薬学研究科では国際交流を目標に掲げ、入学案内にも実施することが記載されているにもかかわらず、留学生も在籍していないので、根本的な見直しが必要である。

(4) 学位授与・課程修了の認定

全研究科および学府

研究指導体制や修了要件、学位論文の作成方法から提出の要件、審査過程などは『大学院履修要項』等に明示されている。研究科によっては「学位に関する取扱い（申し合わせ）」や論文予備審査が設けられており、他研究機関や他研究科の研究者を積極的に副査に起用している点は評価できる。しかし、学位授与方針ならびに学位論文審査基準が学生に明示されていないので、『大学院履修要項』等に明示することが望まれる。

3 学生の受け入れ

各学部・研究科において、理念・目的に応じた適切な学生の受け入れ方針を定め、それに沿った公正な受け入れを行っている。また、受験生に対する説明責任も果たしており、学生の受け入れについて組織的に検証する体制も整備されている。

なお、医療系研究科において、北里大学病院および同東病院職員の医師・看護師や医療従事者を社会人枠大学院学生として受け入れ、医学領域の教育研究者、医療従事者、高度専門技術者を多く輩出しており、評価できる。また、高度専門職業人養成コースが設置されている。

北里大学

定員管理については、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、獣医学部、医療衛生学部で高く、とりわけ理学部と医学部で高くなっており、是正に向けた努力が求められる。収容定員に対する在籍学生数比率では、獣医学部、看護学部、理学部および医療衛生学部の一部の専攻で高く、特に医学部で高くなっているため、あわせて改善・是正が望まれる。また、医療衛生学部では、編入学定員に対する在籍学生数比率が低くなっているため、改善が望まれる。

大学院については、修士課程（博士前期課程）では、収容定員に対する在籍学生数比率および過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均はおおむね適切だが、水産学研究所で収容定員に対する在籍学生数比率が高く、博士課程（博士後期課程）では、複数の研究科で定員を満たしていないため、改善が望まれる。

4 学生生活

学生の生活上の問題解決のための対策には広範な対策を立てている。学生への経済的支援、研究活動への支援、生活相談、ハラスメント防止、就職指導、課外活動支援などの制度および規程を整備し、学生生活と学修環境に配慮して、学生が学修に専念できるよう組織的・体系的に取り組んでいる。経済的支援に関しては、大学独自の奨学金制度を有しており、貴大学において退学者数が少ないことは、これらの経済的支援をはじめとする学生生活全般への支援対策の成果の現れである。ただし、奨学金全体に対して大学独自の奨学金制度が占める比率が低いので、さらなる拡大が望まれる。

ハラスメント防止に関しては、規程および相談員制度を整備し、学生への周知も行われている。就職、健康相談の体制もほぼ整備されているが、さらなる充実が期待される。

5 研究環境

薬学部・薬学研究科

授業担当時間は、研究に集中する時間を確保しており、教員の研修機会についても、「若手教員の育成、国際的視野の涵養のために、国内・国外留学を積極的に行なうことを奨励」しており、十分保障している。今後は、「6年制移行による各教員に対する教育面での負担増加に対しては、全教員が参加協力することにより、担当の交替・分割等の対策を毎年行い適正に調整することで、研究の水準が低下しないように努める」ことに期待したい。

また、科学研究費補助金の採択率が低調で、研究費総額に占める競争的資金等の割合も低いので、改善が望まれる。

北里大学

獣医学部・獣医畜産学研究科

教員1名あたりの学内研究費は十分であり、研究費総額に対する学内資金の割合も高いが、科学研究費補助金の申請件数、採択率は低調であり、研究費総額に占める競争的資金等の割合も低いので改善が望まれる。また、専任教員の授業担当時間数は個人差が大きく、一部の教員、特に若手教員に負担が大きい傾向がある。担当時間数の平均化と、若手教員の時間数の削減が望まれる。

教員の研修の機会として最大2年間の留学・研修が可能となっていて、教育・研究環境の整備が図られており、評価できる。

医学部・医療系研究科

北里精神の筆頭に「開拓（事を処してパイオニアたれ）」があげられており、医学部の理念・目的にも学際領域を含む医学研究の推進、国際貢献、予防医学の推進があげられていることから、医学部では「医工連携」「農医連携」など、分野を超えた研究を目指している。青山学院大学理工学部との共同研究はこの連携を目指したものである。2007（平成19）年度から多施設共同臨床研究に関する厚生労働省科学研究費補助金を獲得し、国際共同研究を開始した。経常予算研究費の配分において、教員が発表した論文が掲載された欧文誌のインパクトファクターに基づく業績配分や、外部資金獲得状況に基づく傾斜配分が実施されている点は評価できる。しかしながら、科学研究費補助金の採択率が低調であり、改善が望まれる。

海洋生命科学部・水産学研究科

貴学部・研究科では、「三陸キャンパスの地域特性を活かしながら、国際的にも高い評価が得られる幅広い研究活動を行い、その研究成果を社会へ還元する」と、研究活動の位置づけがなされている。教員1人あたりの原著論文数や学会賞授与者数などから、研究活動が活発であると言える。

学内研究費は研究室ごとに受け入れ、学部学生数、大学院学生数に応じた実験・実習費が配分されている。科学研究費補助金の採択率も高く評価できる。

研究における国際交流については、国際学会などへの参加旅費を補助する制度、若手教員に対する海外留学へのサポート制度が運用されていることや、教員・研究室主導で、海外学術機関との共同研究や国際的な学会活動が行われており、評価できる。

看護学部・看護学研究科

貴学部の目指す、教育理念に基づく看護教育を行うために「看護キャリア開発・研究センター」を設立し、学部・臨床の組織的協力体制と併せ、重点共同研究による学部・臨床の連携を図っている。今後、円滑に実施できるシステムの構築とともに、多

北里大学

くの大学に寄与することを期待したい。

継続分を含む科学研究費補助金の採択率が高く維持されていることは評価できる。また、新規の採択率も他学部比べて高めに推移している。UCLAと共同研究、教員派遣などに関する合意形成がなされていることなど、教員の研究活動はおおむね適切に行われている。

理学部・理学研究科

学問的基盤である生命科学の研究・教育推進のための環境整備はおおむね良好である。研究活動は、基礎的生命科学と実学的研究のバランスを維持しつつ相互に発展していこうとする姿勢が見られ、制度的にも適切に運営されている。大学からの研究費配分を含む予算面の環境は良好であるが、「科学研究費補助金に代表される競争的資金の採択率が全国平均に比べ低い」ことを受け、外部資金導入の実績を反映させた学内研究費配分方式の必要性を認識している。一方、年間平均の週あたりの授業時間が20時間以上の教員が多数みられるので、改善が望まれる。

医療衛生学部・医療系研究科

学内研究費は潤沢であり、研究費総額における経常経費の割合が高い。若手研究者に対する学内での助成制度は種々設けられており評価できるが、研究費総額に占める競争的資金の割合が低く、科学研究費補助金の採択率も低調であり、より積極的に申請を行うことが望まれる。大型の研究助成金は確実に獲得されており、評価できる。

感染制御科学府

教員研究費は適切に配分されており、研究用の図書、備品、消耗品購入費、学会旅費および研究調査出張旅費などへの支出が認められている。教授室が個室として整備されていることは、学生や研究員などへの指導上有益である。また、研究時間、研究スペースなども良好に整備されており、共同利用施設も充実している。

6 社会貢献

社会貢献活動を大学の理念に規定し、教育・文化活動、医療活動などを通じて地域との連携を促進することを目的としている。

キャンパスのある東京都、神奈川県、岩手県、青森県などにおいて、地域連携協定や高大連携協定などのもと、継続的に市民や高校生に学習機会を提供し、文化交流を図り、公開講座や小中高校生・市民対象の体験授業などにも取り組んでいる。

また、地域連携協定や大学地域コンソーシアムを通じて、地方自治体や医療協議会などの政策形成・実施等に貢献している。

北里大学

従来、「産学連携事業や民間事業所との連携事業は、教員が個々に進めてきたが、制度の確立と戦略的な規準に基づく組織的な取り組みが急務」と認識し、具体的な社会貢献事項を行っている。

貴大学は歴史ある附属病院や研究所を運営しており、地域がん診療連携拠点病院を始めとした多種の指定を受けており、医療・医学・薬学分野におけるわが国や地域医療への貢献がなされている。特に北里大学病院は、地域中核病院として救命救急センターなどを設置し、地域の救急医療に対する貢献もなされている。

大学発の活動として企業との連携を目的とした寄附講座や寄附研究部門を設置し、研究活動を介して産業界へ貢献するための知的資産センターも設立している。特許取得やベンチャー起業化実績も認められるが、今後組織的な取り組みのもとに一層の発展を期待したい。

7 教員組織

専任教員数は、大学設置基準および大学院設置基準上、必要な専任教員数を上回っており、全ての学部、研究科においても十分な教員数が確保されている。また、専任教員1人あたりの学生数も、教育・研究指導を行うのに適切で、主要な授業科目の多くを、専任教員が責任者となって担当している。しかし、教員の年齢構成は、薬学部、獣医学部、医療衛生学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部で専任教員の年齢構成に偏りが見られる。また、学部によっては、専任教員に占める女性教員の割合が低いので、女子学生への対応を含めた改善の検討が望まれる。

医学部では、医学教育研究開発センターを設置して教育課程編成のための教員間の連絡、調整を円滑的専門的に行える体制を整えている。

教員の採用・昇格基準は、学部ごとに定められた規程に基づき、適正に運用されているが、生命科学を共通の基盤とする総合大学として、学部間にある程度の基準の統一性が必要である。教授は公募により選任されているが、准教授以下の選考方法は公募によらないケースもあり、学部・研究科間で差異が目立つ。

教育・研究の活性化の一方策として、優れた教育・研究能力、実績を有する教員の採用とともに、教育・研究両面からバランスのとれた教員組織を目指しているため、教員の任期制が導入されているが、任期制における再任のルールやその審査方法や運用については、形骸化がおきないように学外からの委員の参画等も含めて、今後詳細な議論や検討に期待したい。なお、感染制御科学府の専任教員は、全員任期制で、5年ごとに審査を受けるなど、教員の教育・研究活動を高く維持する制度が確立している。

8 事務組織

貴大学はキャンパスが4カ所に分散しており、それぞれのキャンパスにおいて、概して適切な事務組織を整備している。各キャンパスにおいて学部ごとの独立した事務組織体制をとっている。独立した事務室体制は、業務が重複する可能性があるが、学生の視点からはきめ細かいサービスを提供している。

事務組織の特徴は、第1に各学部事務室が教学系事務と法人系事務の両方の機能を果たしていることであり、第2に両事務とも事務本部に一元化された運営体制をとっていることである。教学系事務部門は、2006（平成18）年度から教学センター、研究支援センター、就職センターおよび入学センターに分かれて大学運営業務を支援している。

学内の意思決定・伝達システムとして、「本部部長会」「事務部長・事務長会」を設け、必要な事項を協議・調整し、また諸会議体の決定事項を報告・伝達している。事務組織と教学組織との連携・協力体制の構築や事務組織の役割に関し、それぞれ到達目標を定め、目標に対する達成状況を点検している。

事務職員対象の研修会は、全体研修のほか、階層別・職場別を実施し充実している。また、教育研修を専門に扱う人事部教育研修グループを設置している。

9 施設・設備

貴大学は、4キャンパスを分散・設置しており、校地および校舎面積は大学設置基準面積を上回っている。各キャンパスのマスタープランに基づき、教育・研究の目的を実現するために施設・設備の整備を行っており、産学共同研究のための特別研究室、学内LAN、電子ジャーナル、テレビ会議、マルチメディア教育などに対応している。施設・設備および機器・備品の維持・管理を、管財部に一元化することにより管理・責任体制を確立し、衛生・安全を確保するためのシステムを整備している。一方、大学設置後46年が経過し、老朽化の目立つ建物もあるため、順次、計画的な対応が求められる。また、各学部などの財政が独立採算制のもとに運営されており、各学部・研究科・学府ともに、先端的研究に必要な設備・機器を整備している。

白金キャンパスでは、キャンパスアメニティの形成にあたり学生の意見を取り入れながら整備を行っているが、薬学部6年制に対応した施設・設備の整備の具体的な検討が望まれる。

相模原キャンパスにおいては、学部学生の講義室は順次改修し、それに伴いIT化を実現している。また、キャンパスアメニティについても適宜改善され、今後も継続した取り組みを期待したい。さらに、専門領域の研究を共同で実施することができる施設として医学部附属遺伝子高次機能解析センターやバイオイメージングセンターなどが設置されている。一方、一部の施設でバリアフリー化の対応が不十分な所も見受

北里大学

けられるので、障がい者へのさらなる配慮が望まれる。

十和田キャンパスにおいて、施設の耐震補強、施設間の移動用通路の確保や遠隔地キャンパスとのネットワークシステムの充実などに課題があり、バリアフリー化や施設の維持管理、機器類の精度管理なども併せ、計画的対応が必要である。

三陸キャンパスは、大自然のなかで実践的教育・研究に打ち込める環境にあることが、施設・整備面での大きな特色・利点である。また、先端的な教育・研究や基礎研究を推進する大型機器、研究設備を整備し、教育・研究成果に生かしていることは評価できる。しかし、障がい者への配慮がなされていない状況もあり、バリアフリー対策の推進が望まれる。

10 図書・電子媒体等

白金（白金図書館）・十和田（獣医学部図書館）・三陸（海洋生命科学部図書館）キャンパスに1つずつ、相模原キャンパスに4つ（医学図書館・看護学部図書館・理学部図書館・教養図書館）の合計7図書館を有している。各図書館は、学部・研究科などの専門分野に応じた資料を、体系的に収集している。図書館LANをVLAN化し全学の図書館システムを利用できるよう配慮しており、また、国立情報学研究所のGeNiiや他の図書館とのネットワーク化も整備し、他大学図書館との情報共有化、相互貸借システムについても効率化が図られている。夜間開館により、学生は最終授業終了後も利用することができ、閲覧座席数も、各図書館においてそれぞれの収容定員を満たし、十分確保しているが、今後、薬学部6年制による学生数増加や、勉学環境のさらなる向上への対応として、閲覧座席数増加などの環境拡充や開館時間の延長などが求められる。

各図書館とも、それぞれに定められた「図書館規程」に基づき運営しており、図書・電子媒体などの資料を体系的・計画的に整備し、利用者の有効な活用には供していると言える。

11 管理運営

各学部・研究科における学部教授会や研究科委員会・学府教授会、全学における学部長会、大学院委員会の審議事項は、各関連の規程に明文化し、適切・公正に管理・運営を行っている。また、学長、学部長、研究科長の選任手続きおよびそれぞれの業務、権限についても規程に明記しており、これに基づき執行している。「理事会は教学には直接介入せず、教学の自主性を尊重し、自立を支援する」を理事会の基本姿勢とし、教学組織と理事会の間の連携協力関係および役割分担・機能分担は適切に行われている。

学長補佐体制の強化として、副学長3名体制と学長室の組織化が図られている。ま

北里大学

た、大学全体の教育運営に関わる後継者の育成として、専任教員のなかから理事を選任するなど、目標の実現に向けた努力がうかがえる。また、期間を設定して到達すべき目標を掲げ、到達度をもとに、改善・改革に向けた管理運営の具体的な改善方策を設定している。なお、大学の管理運営に、学外有識者の意見を取り入れる仕組みのあることが望ましい。

1 2 財務

安定的財政基盤を確立するため、中・長期事業計画を策定し、計画に基づき運営されている。大規模な投資を伴う相模原キャンパス整備事業には、計画的に第2号基本金引当資産が留保されている。また、第3号基本金引当資産も充実している。外部資金の獲得にも努力がうかがえる。

消費収支計算書および貸借対照表の主な財務関係比率は、「医・歯他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べて良好であり、基本目標に掲げている「帰属収支差額比率」「人件費比率」についても目標値を達成し良好に推移している。「要積立額に対する金融資産の充足率」は高いレベルで推移し、帰属収入に対する翌年度繰越消費収支差額は2008（平成20）年度において、収入超過の状態であり、堅実な運営状況にあると認められる。

2008（平成20）年度の法人統合により、規模が拡大したことに加え、今後、大規模な記念事業をひかえており、引き続き財政基盤強化に向けて計画的な財源確保と安定した運営に取り組まれることが望まれる。

なお、監事および監査法人による監査は、適切かつ客観的に行われており、監事による監事報告書では、学校法人の財産および業務執行に関する監査の状況が適切に示されている。

1 3 情報公開・説明責任

2007（平成19）年3月に、自己点検・評価の結果を報告書としてホームページなどを通じて公表している。また外部評価の取り組みや結果は随時大学ホームページなどを通じて学内外に公表している。また広報室を設置し、大学関係者等からの情報公開請求へ対応している。情報公開・説明責任の取り組みへの目標はおおむね達成されている。

教育・研究・診療活動については、上記報告書のほか、『研究年報』『事業計画書』『教育・研究計画』などの刊行物やホームページを通じて情報を開示している。個人情報保護に関する審議も、学長を委員長とする個人情報保護委員会を置いて適時行い、取り組み方針もホームページで公表している。

財務情報の公開については、刊行物、ホームページによって行われている。学内関

北里大学

係者を対象とした広報誌『北里研究所報』には、解説を付した財務三表が、保護者向けの『P P A会報』には収支計算書が掲載されている。また、ホームページには、小科目まで網羅した財務三表をはじめ、計算書ごとに解説と図が付された三表の概要、財産目録、監査報告書、事業報告書が掲載され、公開の対象や方法についてさまざまな工夫がなされている。貴大学が情報公開や説明責任の履行を適切に果たそうとする姿勢が表されており、高く評価できる。

Ⅲ 大学に対する提言

総評に提示した事項に関連して、特筆すべき点や特に改善を要する点を以下に列挙する。

一 長所として特記すべき事項

1 学生の受け入れ

- 1) 医療系研究科において、北里大学病院および同東病院職員の医師・看護師およびそれ以外の医療従事者を社会人枠大学院学生として受け入れ、医学領域の教育研究者、医療従事者、高度専門技術者を多く輩出するなど、一定の成果をあげていることは評価できる。また、この制度を学外対象者に広げようとしており、今後、ますますその成果が期待される。

2 情報公開・説明責任

- 1) 財務情報の公開については、刊行物において、読者にわかりやすく記載するとともに、ホームページにおいては、詳細な計算書類に加え、計算書ごとに解説と図が付された三表の概要を掲載するなどさまざまな工夫がなされており、貴大学に対する理解の促進に役立っている点は高く評価できる。

二 助言

1 理念・目的

- 1) 各学部・研究科の人材養成に関する目的その他の教育・研究上の目的は、学則および大学院学則等に定め公表することが望まれる。

2 教育内容・方法

(1) 教育課程等

- 1) 薬学部において、1～3年次のカリキュラムが薬学科（6年制）と薬科学科（4年制）の両学科間で共通であるので、両学科の特色の違いを明確にしたカリキュラムの構築が望まれる。
- 2) 薬学部、獣医学部、海洋生命科学部において、1年次に学生生活を送る相模原キャンパスで、1群科目の一部を単位未修得・未履修のまま進級すると、2年

北里大学

次以降はそれぞれ別キャンパスで学修するにもかかわらず、当該科目のみ相模原キャンパスでの再履修・再試験が必要となるので、学生への事前周知の徹底および学生に対する交通費などの経済的負担の軽減策の検討が望まれる。

(2) 教育方法等

- 1) 獣医学部生物環境科学科では、授業出席時間の足りない不合格科目についてのみ再履修を義務づけ、授業出席時間の足りている不合格科目については再試験だけで対応しているので、改善が望まれる。
- 2) 海洋生命科学部では、履修登録単位数の上限が設定されていないので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。
- 3) 獣医学部、医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部では、教員間でシラバスの記述内容に精粗があり、成績評価基準を明示していないものもあるので、改善が望まれる。また、薬学研究科、獣医畜産学研究科、医療系研究科においてもシラバスに精粗が見られるので、改善が望まれる。
- 4) 医学部において、学生による授業評価アンケートを、2006(平成18)年度以降、5年次生を除き行っていない。授業評価の再開とFDへの活用が望まれる。また獣医学部、理学部においては、授業評価アンケートの結果を学生に公表していないので、改善が望まれる。

(3) 教育研究交流

- 1) 一部の学部・研究科での取り組みを除き、国際交流活動が低調であるので、国際交流に関わる環境の整備充実を図り、教員・学生双方の派遣及び受け入れ等の交流促進が望まれる。

(4) 学位授与・課程修了の認定

- 1) 全研究科・学府において、学位授与方針ならびに学位論文審査基準が学生に明示されていないので、大学院履修要項等に明示することが望まれる。

3 学生の受け入れ

- 1) 獣医学部における学部開設以来、過去2年間の入学定員に対する入学者数比率の平均および収容定員に対する在籍学生数比率は、1.20、1.21とそれぞれ高いので、改善が望まれる。また、医療衛生学部の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均も、1.20と高いので、改善が望まれる。
- 2) 収容定員に対する在籍学生数比率は、看護学部では1.20、理学部では1.24と高く、改善に向けた取り組みが望まれる。

北里大学

- 3) 医療衛生学部では、編入学定員に対する編入学生数比率が 0.59 と低いので、改善が望まれる。
- 4) 水産学研究科博士前期課程については、収容定員に対する在籍学生数比率が 2.17 と高いので、改善が望まれる。

4 研究環境

- 1) 薬学部、獣医学部、医学部、理学部、医療衛生学部において科学研究費補助金の採択率が低調である。また、薬学部、獣医学部、医療衛生学部においては研究費総額に占める競争的資金等の割合も低いので、改善が望まれる。
- 2) 獣医学部および理学部において、教員の担当授業時間にかかなりの偏りがみられ、研究活動が不活発となっている傾向が見受けられるので、研究時間を確保するため、負担軽減措置を講ずるなどの配慮が望まれる。

5 教員組織

- 1) 専任教員の年齢構成において、薬学部が 31～40 歳が 31.4%、獣医学部が 51～60 歳が 33.7%、医療衛生学部の 51～60 歳が 37.6%、海洋生命科学部の 31～40 歳が 33.4%、41～50 歳が 33.3%、看護学部の 31～40 歳が 39.5%、51～60 歳が 32.5%、理学部の 41～50 歳が 36.0%と、多くなっているため、年齢構成の全体間バランスを保つよう改善の努力が望まれる。

6 施設・設備

- 1) 各キャンパスにおいて、一部の建物での老朽化やバリアフリーの未整備が見受けられるので、改善が望まれる。

三 勸 告

1 学生の受け入れ

- 1) 過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、理学部において 1.29 (すべての学科で 1.20 以上)、医学部において 1.06 と高いので是正されたい。また、医学部は、収容定員に対する在籍学生数比率も 1.11 と高いので、あわせて是正されたい。

以 上